

# マガダン州概要



悲哀の仮面

2019年8月  
在ウラジオストク総領事館

## 目次

1	位置	2
2	気候	2
3	沿革	2
4	人口・住民	2
5	政治	2
6	経済・産業	3
7	治安情勢	4
8	日本との関係	4

## マガダン州概観

### 1 位置

(1) マガダン州はロシア極東の北部に位置し、北部でチュコト自治管区及びカムチャツカ地方と、南部でハバロフスク地方と、西部でサハ共和国と境を接し、東部はオホーツク海に面している。州都マガダン市はオホーツク海に面した良港である。

(2) 面積は46万1,400平方km（日本の1.24倍、ロシア連邦構成主体の中で第9位）。

(3) 日本との時差は、マガダン州が日本より2時間進んでいる。

### 2 気候

マガダン州はツンドラ気候帯に属し、地下には季節を問わず永久凍土が広がっている。夏と冬の寒暖差が激しく、夏季の気温は30℃まで達することもあるが、1年のうち6~7.5ヶ月を占める冬季には州中心部では-40℃~-50℃まで下がり、厳しい寒さとなる（年平均気温は-2.7℃）。冬季は陸路での物資輸送が困難となるため、夏の間燃料・日用品・食料品等を輸送して冬に備える「北方輸送」の対象地域となっている。オホーツク海に面したマガダン市は州内でも相対的に温暖な地域であるが、沿岸部は濃霧や長雨に見舞われることが多い。

地勢としては穏やかな山の稜線が続き（夏でも山に残雪が残る）、多くの河川が流れる。火山（すべて休・死火山）を背景に若干の温泉もある。

### 3 沿革

(1) 20世紀初頭、コルィマー川流域で砂金が発見され、その後、金、銀、錫、タングステン、レアメタル等の鉱物資源開発がすすめられた。以降、同地域へのロシア人の入植が本格化した。1928年にはナガエヴォ港（後のマガダン村、1939年にマガダン市に昇格）が建設され、採金業の根拠地として発展した。

(2) 1931年、極東北部の開発を進めるため、マガダンに本部を置く「ダリストロイ（極東開発総局）」が設置された。その労働力として、政治犯を含む多数の囚人がマガダン経由で内陸部のコルィマー流域を中心として設置された強制収容所（「グラーク」）に組織的に送り込まれた。過酷な気候条件に加え、非人間的な強制労働システム「グラーク」により膨大な数の人命が失われ、「コルィマー」の地名は旧ソ連全土でも最悪の「グラーク」として今日なお人々に恐怖を呼び起こすものがある。「ダリストロイ」による開発は1954年まで続けられた。

(3) 1953年12月、マガダン州が設置された。

### 4 人口・住民

(1) 現在の人口は14万1,231人（2019年1月）で、その半分以上の9万8,671人（2019年1月）が州都マガダン市に集中しており、州全体に広大な無人地帯が広がっている。人口は1989年の39万人をピークに激減している。

(2) 人口の75%はロシア人で、その他ウクライナ人、タタール人、ベラルーシ人やエヴェン人（元々の住民：北方のエヴェン自治管区にいる）、コリヤーク人等の北方諸民族も含む105の民族が居住している。

### 5 政治

(1) ペチョーヌイ州知事は2018年5月に辞任し、同月大統領令によりセルゲイ・ノソフ氏が知事代行に任命された。2018年9月9日の知事選挙で勝利し、正式に知事に就任した。

(2) 2015年9月に実施されたマガダン州議会選挙での比例区選出議員は11名(「統一ロシア」7名(57.71%),「公正ロシア」2名(13.54%),「共産党」1名(11.44%),「自由民主党」1名(9.95%),括弧内は各党得票率)。小選挙区選出議員10名。議長はアブラモフ議員(「統一ロシア」)。

(3) 2016年9月に実施された国家院選挙の各党得票率は、統一ロシア45%、ロシア自民党20%、ロシア共産党15.5%。投票率は40%。

(4) マガダン市については、2015年11月、グリシヤン第一副市長が市長となり、現在(2019年8月)も同人が市長を務める。市議会は議員定数28、任期5年。

## 6 経済・産業 (経済指標の出典：連邦統計局ハバロフスク支部資料)

### (1) 経済状況・産業構造

(ア) マガダン州の主な経済産業は鉱業及び発電業であり、これらの分野がマガダン州の年間生産高の95%、投資の67%を占めており、労働人口の23%が同分野に従事している。

鉱業(特に金と銀)についてはソ連解体後の経済混乱で生産量は一時落ち込んだものの、その後米国やカナダ、アイルランド及び中国からの外資導入を図り、1997年にクバカ金鉱やシコロノエ金鉱、ドウジュリエッタ金鉱等の生産が始まった結果、生産は回復し、2018年における金の生産量は37トン、銀の生産量は696トンであった(数値はマガダン州政府HP発表資料)。他方、生産した金はロシア中銀及び中銀が認可するロシア商業銀行にのみ売却可能で、価値も相対的に安いことから、多くの外国企業は撤退した。

銀については、近年生産量が減少傾向で、2018年は前年と比べて83.1万トン削減するなど停滞している。同州では、現在ヤノ・コルィムスキー地区、南アモロンスキー地区、シャマニホ・ストルボフスキー鉱床及びオロエクスキー鉱床地区の開発が進められている。

(イ) 鉱業に次ぐ主要産業は発電業である。現在マガダン州では水力発電による電力供給が行われている。ただし、マガダン州の発電産業はロシア統一エネルギーシステムのネットワークから独立しているため、余剰電力を他地域に送電できない。この余剰電力を利用すべく、2013年6月、川崎重工、ルスギドロ、RAOエネルギーシステム・ヴォストークの間で、液化水素生産プロジェクトに関する合意文書が署名されたが、その後進んでいない模様。また、三井物産、千代田加工、ガスピロムの間で液化水素工場建設プロジェクトに関する文書が署名され、具体的な進展はないものの、調査は続いている。

(ウ) 漁業・水産加工業も盛んであり、スケトウダラ、ニシン、マダラ、オヒョウ、コマイ、カレイ、サケ、イカ、カニ、ツブ貝を中心にロシア国内市場だけではなく米国、中国、日本、韓国へも輸出している。

(エ) マガダン州と他の地域を結ぶ手段として、自動車道、港湾及び空港があるが、鉄道はない。海運は、同州の貨物99%を運んでいる。またマガダン市から56kmに位置するマガダン国際空港はロシアの他地域、CIS諸国を含む外国とマガダン州を結んでいる。

(オ) エネルギー資源開発プロジェクトとしては、北オホーツク海域のマガダン沖大陸棚の石油・天然ガス開発プロジェクト(マガダンⅠ～Ⅳ)があり、マガダンⅡ、Ⅲについては、日本企業が関心を有しているが、現時点でどの程度進展しているのか不明である。

(カ) 先行発展領域(TOR)「コルィマ」(観光分野)及び「オムスクチャンスキー石炭クラスター」(石炭開発)の創設が検討されている。

### (2) 特別経済区

1999年に「マガダン州における特別経済区に関する連邦法」が採択された。同法は2014年に変更され、経済特区制度の有効期間が2025年まで延長された。極東全体の開発、マガダン

州への投資誘致及び同州での新たな産業作りを目的としており、右域内に本社を置く法人に対し法人税や関税面での優遇措置が与えられる。現在進行中のプロジェクトとして、巨大スキー場を含むスポーツ・観光コンプレックス「太陽のマガダン」の建設が挙げられ、同コンプレックスでは、スキー場、商業センター、客室数300室のホテル、屋内駐車場、展望台、レストラン、娯楽施設等が建設される予定。

### (3) 貿易

2018年のマガダン州の貿易高は総額5億4,250万ドル（2017年5億1,718万ドル）と、対前年比で5%増加し、輸出が4億5,510万ドル（前年比5%増）、輸入が8,740万ドル（前年比±0）と輸出が増加した。主な輸出商品は伝統的に魚・海産物であるが、近年、鉱石・スラグ類の輸出が急増している。主な輸入品は自動車・輸送用機械で輸入全体の約50%を占めている。主な貿易相手国（2017年データ）は韓国（輸出：6,921万ドル、輸入：2,157万ドル）、日本（輸出：4,594万ドル、輸入：536万ドル）、中国（輸出：2,158万ドル、輸入：2,225万ドル）、その他、ユーラシア経済同盟加盟国のカザフスタン（輸出：1億5,045万ドル、輸入：2万千ドル）である。

### (4) 経済発展水準・国民生活水準

(ア) マガダン州は金採掘などの鉱業により連邦構成主体の中で賃金水準の高い地域である。予算関係勤務員には極北係数250%が今でも適用されている。近年域内総生産は順調に増加。2017年の平均賃金は7万5,710ルーブルであった。

#### <マガダン州の域内総生産>

2012	2013	2014	2015	2016
784.2 億ルーブル	889.1 億ルーブル 成長率 (11.3%)	969.4 億ルーブル 成長率 (9.0%)	1246.0 億ルーブル 成長率 (28.5%)	1469.2 億ルーブル 成長率 (17.9%)

(イ) 同州を悩ませている最大の問題は人口流出である。ソ連時代、中央から遠く離れ、自然・気候条件が過酷であることから同州では賃金等の特典を与えることにより労働力を確保し、人口増加を図ってきた。ソ連解体後、そうした特典は有名無実化したため、人口流出が続いている。

## 7 治安情勢

2018年の犯罪認知件数は2,951件と、前年比で6.5%増加した。犯罪認知件数の内訳は携帯電話窃盗や自動車盗等の窃盗罪が全犯罪の約3割を占め、件数が増加しているほか、詐欺や強盗事件も増加している。

近年マガダン州では中央アジアや朝鮮半島からの外国人労働者の流入が増え、様々な人種、民族が暮らしており、概して対日感情は良好であるが、「日本人は金を持っている」という認識から強盗や窃盗等の財産犯罪に遭遇する危険性は排除されず常に注意が必要である。

## 8 日本との関係

### (1) 日本企業

日本企業では水産関係企業や建機メーカーがマガダン州内で活動しており、特別経済区制度の枠組みで、2016年12月にコマツがリマンセンター（注：鉱山建設機械を分解・清掃・再組み立てする施設）を設立した。また、マガダン州は比較的富裕層が多いことから、ソニ

一社が自社製品の展示・販売を行う「ソニーセンター」をマガダン市に構えている。

## (2) 文化

2009年7月、マガダン市70周年祭とタイアップする形で映画館「ゴルニャック（鉱夫）」（元々日本人抑留者が建設したもの）にて日本映画祭を開催、日本映画4本を上映（同州奥地（マガダン北方約500km）のヤーゴドノエにおいても特別上映）。

2010年7月、マガダン日本文化デイズを開催、日本アニメ上映会（同州の地方都市であるウスチ・オムチュクでも上映）、着物着付講習会、ミニ日本展示会、日本に関するプレゼンテーションを実施。

2011年9月及び2013年8月、2015年9月、2016年10月に「ゴルニャック」映画館にて日本映画祭を開催し、2018年10月には映画上映の他、囲碁やあやとりのデモンストレーションを含む日本文化デイズを開催した。また、同映画館の広報・文化事業の振興への貢献に対し、2018年外務大臣表彰が授与された。

## (3) 日本語教育

日本語の専門教育は北東国立大学（同大学には日本人の日本語講師が採用されている）及び第24番ギムナジウムにて行われている。日露青年交流事業において、北東国立大学から毎年若干名が日本を訪問し、日本の大学生と交流を行っている。

## (4) 自治体交流

マガダン市は日本との姉妹提携に関心を有しているが、実現していない。

## (5) 日本人抑留者

(ア) 第二次世界大戦終了後、ソ連により抑留された旧日本軍人等のうち3000人以上がマガダン周辺の収容所に送られ木材伐採や建設作業等の労役に従事した。

(イ) 1992年、抑留者埋葬地2カ所（うち1カ所はマガダン市内の「使徒降臨教会」敷地内）で厚生労働省による遺骨収集が行われ49柱が収集された。この他、マガダン中央バスターミナルから約4キロ離れた海岸の工場敷地内にも埋葬地が存在するとされる。

(ウ) マガダン市公園においては、日本人抑留者が1949年の帰国時に建設したとされる木造の「あずまや」が復旧される形で「日本並木道」が建設され、2018年7月開会式が行われた（同開会式は「ロシアにおける日本年」の行事にも登録された）。

## (6) その他

1939年12月、マガダンからウラジオストクに向かっていたソ連輸送船インディギルカ号が北海道宗谷岬付近で座礁沈没しマガダンの漁業労働者や移送中の囚人など約700人が犠牲となったが、現場近くの猿払村では官民一体となって救助にあたり暴風雪の中で約400人を救出した。現在、猿払村の海岸には慰霊碑が建てられている。

(了)